教師，生徒，保護者へのアンケートを活用した学校行事の評価と指導

―学校行事における目標に準拠した評価の研究―

豊川市立一宮中学校

１　はじめに

本校は東三河地方にあり，豊橋平野北部の農業地域に位置している。豊かな自然に囲まれ，活力のある落ち着いた学校経営が行われている。本校では，「活気に満ちた明るく魅力ある学校づくり」を目指し，特に特別活動に力を入れている。中でもスクラム活動(「資料１」を参照)を基盤にした体育大会，一中祭合唱コンクール等の学校行事では高い成果を上げている。しかし，これらの行事を的確に評価しているかといえば，教科指導における評価活動に比べ，まだ改善の余地を残していた。そこで，平成15年度・16年度には，恒例の行事として一定の成果を得てきた学校行事についても再点検を行い，よりよくするためにＰＤＣＡサイクルを取り入れた評価の研究に取り組んできた。平成17年度からは，今までの研究に組織マネジメントの手法を加味し，多くの教師がかかわりながら，よりよい学校行事になることを目指して研究を行った。

〔資料１「本校のスクラム活動」〕

１年生から３年生までの縦割り集団による交流活動

スクラムの編成

１Ａ，２Ａ，３Ａの３学級で「Ａスクラム」
１Ｂ，２Ｂ，３Ｂの３学級で「Ｂスクラム」
１Ｃ，２Ｃ，３Ｃの３学級で「Ｃスクラム」
１Ｄ，２Ｄ，２Ｅ，３Ｄの４学級で「Ｄスクラム」

具体的なスクラム活動

４月　スクラム結成会
９月　体育大会において，スクラムリレーとスクラム演技，スクラム反省会
　　※スクラム演技：生徒自身により演技の振り付け，曲の選定，小道具の製作
11月　一中祭において，スクラム合唱
12月　マラソン大会において，スクラム駅伝

※　上記の活動を成功させるために，スクラム黒板（伝えたい思い，励まし，連絡等が書き込める）や，それぞれの行事の練習が何度もある。

２　平成15年度・16年度の研究

(1) 研究の目的･方法

まず，学習指導要領に記されている特別活動の目標と本校で行っている各学校行事の目標とを照らし合わせ，是正する必要の有無を確認した。

その後，次の手順で見直しを進めた。

PLAN		PLAN		DO		CHECK		ACTION
①各学校行事で身に付けさせたい力の検討	⇒	②評価規準の作成	⇒	③評価規準に基づく事後アンケート作成と実施	⇒	④事後アンケート結果の分析と分析結果の活用	⇒	⑤行事の改善

(2) 研究の内容

ア　学校行事の目標の点検(PLAN)

職員会議での各行事計画の提案時に，各行事の目標が学習指導要領の特別活動の目標や本校の特色ある学校づくりに合致したものであるかを点検した。

イ　評価規準の作成(PLAN)

〔資料２〕のように，各行事の目標を基に，その目標がおおむね達成されている生徒の姿として評価規準を作成していく。

〔資料２「目標から評価規準へ」〕

全校「体育大会」（体育的行事）平成15年９月20日		
「目　標」		「評価規準」
１　練習や大会を通して体力，気力の充実を図り，心身の健康や安全に留意する態度を育成する。また生涯体育の基礎を築くとともに，生きる力へ発展させる実践の場とする。 ２　規則に基づく正しい競争心と協調性をもって主体的に参加し，企画・運営の実践を通して，学年を取り払った，全体の総合的な自主性や創造性を身に付ける。 ３　日ごろの学習や体育的諸活動で身に付けた技能や態度を十分に発揮し，体育的活動の発表の機会として，地域社会に関心・理解・協力を得る場とする。 ４　大会の諸活動を通して，奉仕の精神や清掃活動の実践の場とする。	⇒	１　練習や大会を通して体力，気力の充実を図り心身の健康や安全に留意している。 ２　規則に基づく正しい競争心と協調をもって主体的に参加している。 　企画・運営の実践を通して，自主や創造性を身に付けている。 ３　日ごろ培った技能や態度を，地域社会に発信している。 ４　自己の係や役割を理解し，集団の一員として皆のために自己の責任を果たしている。

ウ 評価(DO)

(ｱ) 教師の評価

教師用アンケートは，〔資料２〕の評価規準に準拠した項目を設け，目標や評価規準を意識するよう，評価の根拠も記述する形式をとった。〔資料３〕中の「Ｃにした根拠」が，改善の視点となる。

〔資料３「体育大会教師アンケートの内容と結果」〕

〔15年度〕 体育大会反省アンケート（教師結果） ［%］		A しっかり できた	B まずまず できた	C あまり できなかった	D 全く できなかった
Ｑ１	体力・気力を充実させ心身の健康や安全に留意させることができた。	**28**	**64**	**8**	**0**
Ｑ２	規則に基づく正しい競争心と協調性をもって主体的に参加させることができた。	**36**	**60**	**4**	**0**
Ｑ３	企画・運営の実践を通して，自主性や創造性を身に付けさせることができた。	**24**	**48**	**28**	**0**
Ｑ４	日ごろ培った技能や態度を，地域社会に発信させることができた。	**40**	**44**	**16**	**0**
Ｑ５	自己の係や役割を理解させ，集団の一員として自己の責任を果たさせることができた。	**20**	**68**	**12**	**0**

項目３の設問「企画・運営の実践を通して，自主性や創造性を身に付けさせることができた」に対して，教師がＣ（あまりできなかった）とした根拠は以下のように分析することができる。

- １年生のスクラム活動において，自主的な活動の場が少なかったため,言われたことをやるだけにとどまっていた。
- 指示を与えなければ協力できない面がある。

(ｲ)　生徒の評価

生徒用アンケートは，生徒の各活動と評価項目との対応が明確になるよう配慮した選択肢型の９項目と，自己を見つめさせることをねらった記述式項目の「Q10」を設定した。

〔資料４「体育大会の自己評価（生徒）と結果」〕

〔15年度〕		A	B	C	D
		しっかりできた	まずまずできた	あまりできなかった	全くできなかった
Ｑ１	練習や大会では，気持ちを十分入れ，意欲的に取り組むことができた。(体力･気力)				
Ｑ２	練習や大会では，健康や安全に気を付けて，活動することができた。(健康･安全)				
Ｑ３	規則を守り，スクラムや学級･個人の勝利のために自分なりに頑張ることができた。(正しい競争心)				
Ｑ４	学級･スクラムの仲間のことを考え，協力して活動することができた。(協調性)				
Ｑ５	学級･スクラムの仲間の知らない面にも気付き，以前より親しみを感じることができた。(協調性，思いやり)				
Ｑ６	スクラム活動を通して，先輩･後輩のよい面に気付くことができた。(協調性，思いやり)				
Ｑ７	大会成功に向け，自分の係活動を意欲的に行い，責任を果たすことができた。(自主,創造,責任感)				
Ｑ８	自分の係活動以外の場面でも，皆のことを考えて，積極的に行動することができた。(自主,創造,責任感)				
Ｑ９	日ごろの授業や練習での成果を保護者や地域の方々に，アピールすることができた。(成果の発表)				
Q10	今回の体育大会で，個人として頑張ったこと，成長したこと，プラスになったことなどを書いてください。(記述式)				

[%]	A	B	C	D
Ｑ１	５７	３９	４	０
Ｑ２	４８	４４	７	１
Ｑ３	６９	２６	４	１
Ｑ４	４１	５０	８	１
Ｑ５	２８	５３	１７	２
Ｑ６	４５	４２	１２	１
Ｑ７	４７	４５	８	０
Ｑ８	１８	５７	２２	３
Ｑ９	３３	４４	１９	４

エ　事後アンケートの分析（CHECK）

教師，生徒，保護者の三者によるアンケート結果より，成果及び問題点を洗い出した。[資料５]は，その結果を考察したものである。

〔資料５「三者のアンケート結果の分析」〕

目標（評価規準）に準拠した評価アンケートの考察〔体育大会，H.15.12.15 ,特活部〕

１　各項目の割合（%）の結果

(1)　**生徒の自己評価**

ＡＢが9割以上	Q1,2,3,4 (1:体力･気力，2:健康･安全，3:競争心，4:スクラム協調性)
ＡＢが8割以上9割未満	Q5,6,7(5:学級思いやり，6:スクラム思いやり，7:係責任感)
ＡＢが7割以上8割未満	Q8,9 (8:係以外自主性，9:成果アピール)　(7割未満なし)

(2)　**教師アンケート結果**

ＡＢが9割以上	Q1,2(1:体力･気力，健康･安全，2:協調性･主体性)
ＡＢが8割以上9割未満	Q4,5 (4:成果アピール，5:係責任感)
ＡＢが7割以上8割未満	Q3　(3:自主性･創造性)　(7割未満なし)

(3)　**保護者(来賓のみ)アンケート結果**

ＡＢが9割以上	Q1,2,3,4,5(全項目) (1:体力･気力，2:競争心，3:協調性,思いやり，4:自主性･創造性,5:成果アピール)

２　コメント（成果と課題）

(1)　アンケート項目は，評価規準をより具体化して作ってあるので，生徒・教師のアンケート，保護者(来賓)アンケートとも多数の項目でＡＢが８割以上を示していることから，一宮中の体育大会は，完成の域に近いと言える。

(2)　課題として，教師Ｑ３「企画・運営の実践を通して，自主性・創造性を身に付けることができたか」に対する，「リーダーは育っているが他の者の成長が不十分である(Ｃの根拠)」がある。

オ　アンケート結果の活用（CHECK）

生徒の手により行事が運営されていることもあり，体育大会・一中祭とも事後の生徒総会では，アンケート結果を基に，生徒なりの総括を行うことができた。また，学年通信等の学校からの情報発信で，アンケート結果を交えた活動の総括を，家庭・地域に発信することもできた。

（写真：体育大会後の生徒総会）

生徒評価アンケート実施
↓　↓
学級で反省　**生徒委員会で反省**
↓　↓
生徒議会で意見交換
↓
生徒会執行部で検討
↓
生徒総会で総括

テーマを「体育大会を終えて，今後の生活に生かしたいこと」として，

・よかった点はどんなところか
・悪かった点はどんなところか
・今後の生活に生かしたいことは

の３点について，生徒総会で討論した。

カ　行事の改善(ACTION)

各行事ともその都度，課題と手だてを再確認して次年度に申し送りしているが，年度末にもその年度の教育活動及び教育課程全般の見直しを行っている。体育大会・一中祭の改善案も年度末の見直し会議で検討し，次年度の計画に生かすことにした。**「対応案及び今後の方針等」**が，次年度への申し送り事項である。[資料６]にて体育大会のみ掲載する。

〔資料６「学校教育全般の見直し」〕

平成15年度　学校教育全般の見直しのまとめ　　平成16年３月　　Ｎｏ．１
※「問題点」と「改善策」＝年度末の職員からの「学校教育全般の見直し」の意見
※**「対応案及び今後の方針等」**＝年度末の職員会議（学校教育の見直し）で話し合った内容

項　目	問　題　点	改　善　策
①　一中祭	（略）	（略）
④体育大会	・意義が高く，成果が上がっているが，練習時間を取りすぎている。残暑厳しい中での練習であるので，最少に留めるべきである。全体練習をもっと減らす方がよい。 ・競技種目が多すぎる。 ・陸上競技大会のような種目が多すぎる。	・全体練習を減らして，浮いた分をスクラム練習に活用する。 ・フィールド大会をなくし体育大会を1日にする。 ・学級全員で取り組めるような種目にする。
	◎　対応案及び今後の方針等 ※　体育大会の目標を達成するには，現行の種目がよい。 ※　生徒の自主性を育てるためには，15年度に近い時間数は必要（ただし，減らす努力を）。 ※　体育の時数，ローテーション方式で週2コマにする。	

キ　改善を加えた実践（平成16年度）

(ｱ) アンケートの結果と前年度の比較

前年度の課題の解決を意識して行事を行い，前年度同様のアンケートを実施し，成果等を分析した。

- 教師の評価・・・・・・(７ページの〔資料７〕，８ページ〔資料８〕を参照)
- 生徒の評価・・・・・・(８ページの〔資料９〕，９ページ〔資料10〕を参照)
- 保護者の評価・・・・・(10ページの〔資料11〕，〔資料12〕を参照)

(ｲ) アンケートの結果の分析から

a　体育大会の成熟度

生徒，教師，保護者等の三者間で，Ａ及びＢ（おおむね満足以上）の数値を比較すると，保護者等（ほぼ100％に近い数値），生徒（項目間の多少はあるが約88％），教師（低い項目で80％）の順になっている。教師は指導者として厳しい見方をしているのであろうが，保護者，生徒の数値からみても，平成15年度同様，本校の体育大会は完成の域に近いと考えた。

b　職員の共通理解

教師アンケートの変化を分析すると，平成15年度はＱ３が問題であったが，16年度は若干の改善が認められる。また，Ｑ２については大幅な進歩が認められる。ただし，質問の視点にあいまいな点を感じた。単に生徒の育った姿を評価するのか，規準達成に向けた教師の取組の自己評価なのかという点である。また，Ｑ４の成果の発表に関しても，雨天のため平日に延期となり，参観者が少なかったから不十分と考えるのか，悪天候，平日にもかかわらずあれだけの方が（アンケート回収数139/家庭数426)来られたので満足できると考えるのかも，意見が分かれるところである。これらの点は，今後共通理解を図ることが課題である。

c　生徒主体の学校生活

生徒アンケートの変化を分析すると，Ｑ８のＣが増えた点が課題であるが，昨年度に比べておおむね向上傾向にあり，教師Ｑ２や生徒Ｑ４・６で裏付けられるように，生徒たちは意欲的に取り組むことができたと言える。また，生徒会役員らは生徒総会の中での討論会で，このアンケート結果を基にして総括をした。それをもとに活発な意見交換が行われた。このことからも，学校生活に主体的に取り組もうとする生徒が育ってきていると言える。

d　地域からの期待

来賓・保護者アンケートについては，昨年は来賓17名のデータしか採れなかったので，本年度との比較は行わない。本年度は１日目（土曜日）途中の降雨と再々延期の平日実施のため，更に少ない来賓数13名分と保護者数139名分との合計データで集計した。伝統となった本校体育大会に対する地域からの期待度，特にスクラム演技への地域からの注目度などを意識して今後も取り組みたい。

ク　平成17年度へ向けての課題

以上のように行事を実践したことで，成果としては「今回の評価方法の有効性を全職員で理解できたこと」「各行事の成果と課題を次に生かす評価サイクルの有効性が検証されたこと」「本校教育活動における行事の位置付け・意義を確認することができたこと」等が挙げられる。

一方，課題としては，「リーダーは育っているが他の者の成長が不十分である」というアンケート結果から，「事前及び活動中での更なる教師支援の工夫をいかにするか」が挙げられる。

３　平成17年度の研究

(1) 研究の目的･方法

前年度の課題，体育大会における「事前及び活動中の支援の工夫」について，アンケートの「評価項目(目的達成の確認)の改善」をすることとした。

方法としては，２年目まで実施してきた評価手法「Ｐ→Ｄ→Ｃ→Ａ」サイクルの課題解決を，「Ｐ→Ｄ→Ｃ→Ａ」**スパイラル**と呼ぶことにし，サイクルから**スパイラル**へとより前進させる意志を込めて評価することにした。サイクルのときは，悪かったところに目を向け改善を図ってきたが，スパイラルではよい評価を得たところも，もう一度原点に戻り見直しを図った。そこで，組織マネジメントの発想に立ち，組織の流れを見直した。

(2) 改善のための取組（手法）

本年度に入り体育大会の計画では，職員会議に提案するために昨年度の見直し案を基に，組織マネジメントを生かすことを考えた。そこで，体育部，特活部の各部で検討，体育部と特活部の合同で検討，学年会等などの会議をもった。平成16年度の課題の中にも**「リーダーは育っているが他の者の成長がまだ不十分である」**があることから，「事前及び活動中の支援に関する項目」の追加や修正などアンケート内容を検討した。

〔PLAN〕　評価規準の作成
（体育大会で身に付けさせたい力の検討）
↓
〔 DO 〕　評価規準に基づく事後アンケート作成と実施
↓
〔CHECK〕　事後アンケート結果の分析
↓
〔ACTION〕行事の改善

よい結果のところにも改善点がないか見直す。

行事見直しの組織の流れ

体育部　特活部
↓　↓
学　年　会
↓
体育部＋特活部
↓
企画委員会→職員会議

(3) 研究内容

ア　評価規準の作成〔体育大会で身に付けさせたい力の検討〕（PLAN）

教師の評価規準の見直しを以下のようにした。

〔平成16年度教師の評価規準〕

Q1　体力･気力を充実させ心身の健康や安全に留意させることができた。
Q2　規則に基づく正しい競争心と協調性をもって主体的に参加させることができた。
Q3　企画･運営の実践を通して，自主性や創造性を身に付けることができた。
Q4　日ごろ培った技能や態度を，地域社会に発信させることができた。
Q5　自己の係や役割を理解させ，集団の一員として自己の責任を果たさせることができた。

⇒

〔平成17年度教師の評価規準〕

Q1　**練習や大会を通して，**体力･気力を充実させ，心身の健康や安全に留意させることができた。
Q2（昨年と同じ）
Q3（昨年と同じ）
Q4（昨年のＱ5と同じ）
Q5（昨年のＱ4と同じ）
Q6　**体育大会の目的やスローガンを意識して事前や活動中に生徒の支援に当たることができた。**
(新)

生徒の評価規準を以下のように見直した。

〔平成16年度生徒の評価規準〕

Q1　練習や大会では，気持ちを十分入れ，意欲的に取り組むことができたか。（体力･気力）

（Q5～Q6は省略）

Q7　大会成功に向け，自分の係活動を意欲的に行い，責任を果たすことができた。（自主,創造,責任感）

Q8　自分の係活動以外の場面でも，皆のことを考えて，積極的に行動することができた。（自主,創造,責任感）

Q9　日ごろの授業や練習での成果を保護者や地域の方々に，アピールすることができた。（成果の発表）

⇒

〔平成17年度生徒の評価規準〕

Q1～Q6（昨年と同じ）

Q7　（昨年のQ8と同じ）

Q8　**大会成功に向け，スローガンを意識して，意欲的に取り組むことができた。**

(新)　　(自主性,創造性)

Q9　（昨年のQ7と同じ）

Q10　（昨年のQ9と同じ）

イ　評価(DO)

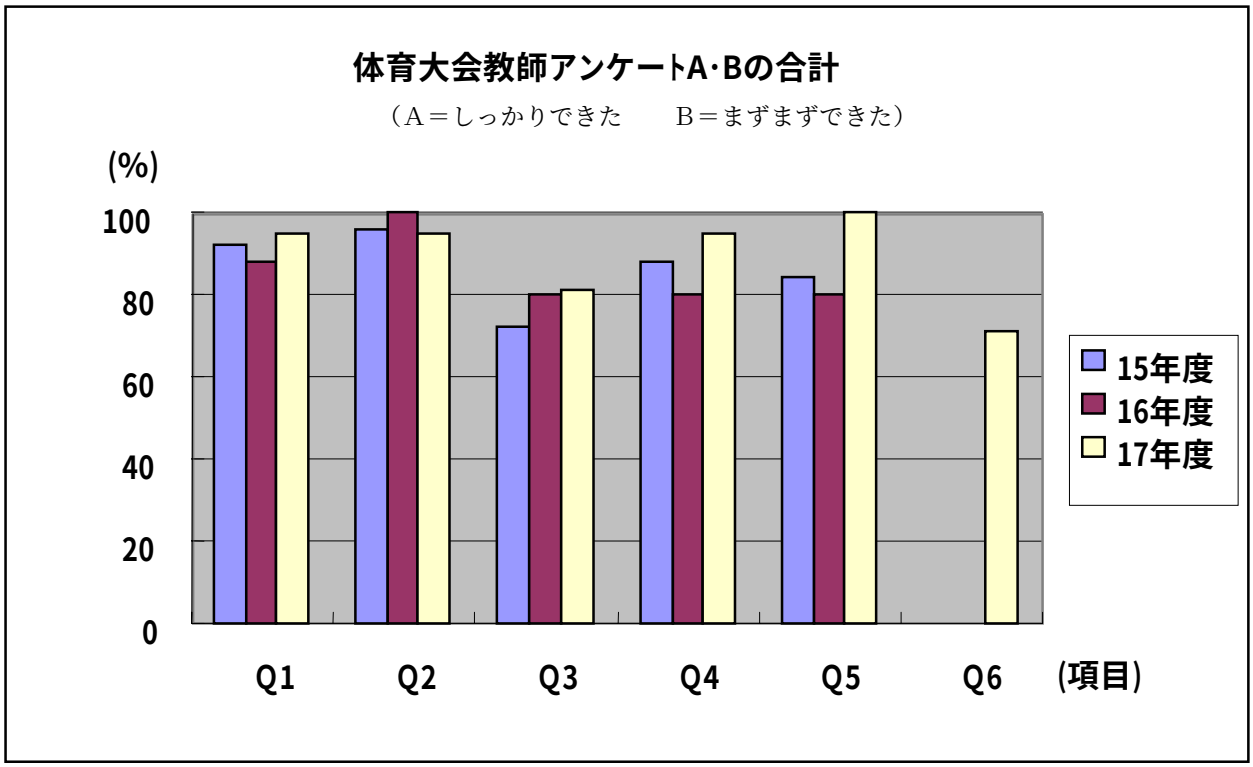
(ｱ) 教師の評価の結果と分析

教師の評価についてまとめると以下のようになる。グラフは次ペ-ジに示す。

〔資料７「平成15年度から17年度の教師アンケート結果の比較」〕

体育大会アンケート結果（教師）[%] A･･･しっかりできた　B･･･まずまずできた C･･･あまりできなかった　D･･･全くできなかった		A			B			C			D		
		15	16	17	15	16	17	15	16	17	15	16	17
Q１	**練習や大会を通して**体力・気力を充実させ，心身の健康や安全に留意させることができた。	28	28	24	64	60	71	8	12	5	0	0	0
Q２	規則に基づく正しい競争心と協調性をもって主体的に参加させることができた。	36	48	43	60	52	52	4	0	5	0	0	0
Q３	企画・運営の実践を通して，自主性や創造性を身に付けることができた。	24	16	24	48	64	57	28	20	19	0	0	0
Q４	自己の係や役割を理解させ，集団の一員として自己の責任を果たさせることができた。	20	32	38	68	48	57	12	20	5	0	0	0
Q５	日ごろ培った技能や態度を，地域社会に発信させることができた。	40	36	29	44	44	71	16	20	0	0	0	0
Q６	**体育大会の目的やスローガンを意識して事前活動中に生徒の支援にあたることができた。**	―	―	19	―	―	52	―	―	29	―	―	0

〔資料８　「15年度～17年度の教師アンケート結果のグラフ」〕



Ａ，Ｂの合計をみると，Ｑ３「自主性･創造性」は少しずつ上昇しているがまだ工夫が必要である。

〔教師の記述から〕

・スクラム練習や全体練習など，生徒自らが動く場面がよく見られた。
・リーダーは抜群。他の生徒は，相変わらず指示待ち。しかし，リーダー以外にも動きだす場面も多く見られた。
・夏休み前から３年生を中心に考え，１･２年生の意見も聞きながらスクラム演技を作り上げた。
・全体に声を掛けるような自主的な姿が見られるようになったが，多くはまだついていくだけという感じがする。
・スクラムへの１・２年生の参加意識の向上が課題

Ｑ６「教師の支援」は71%でやや不満が残るが，教師はよく意識して取り組んでいた。

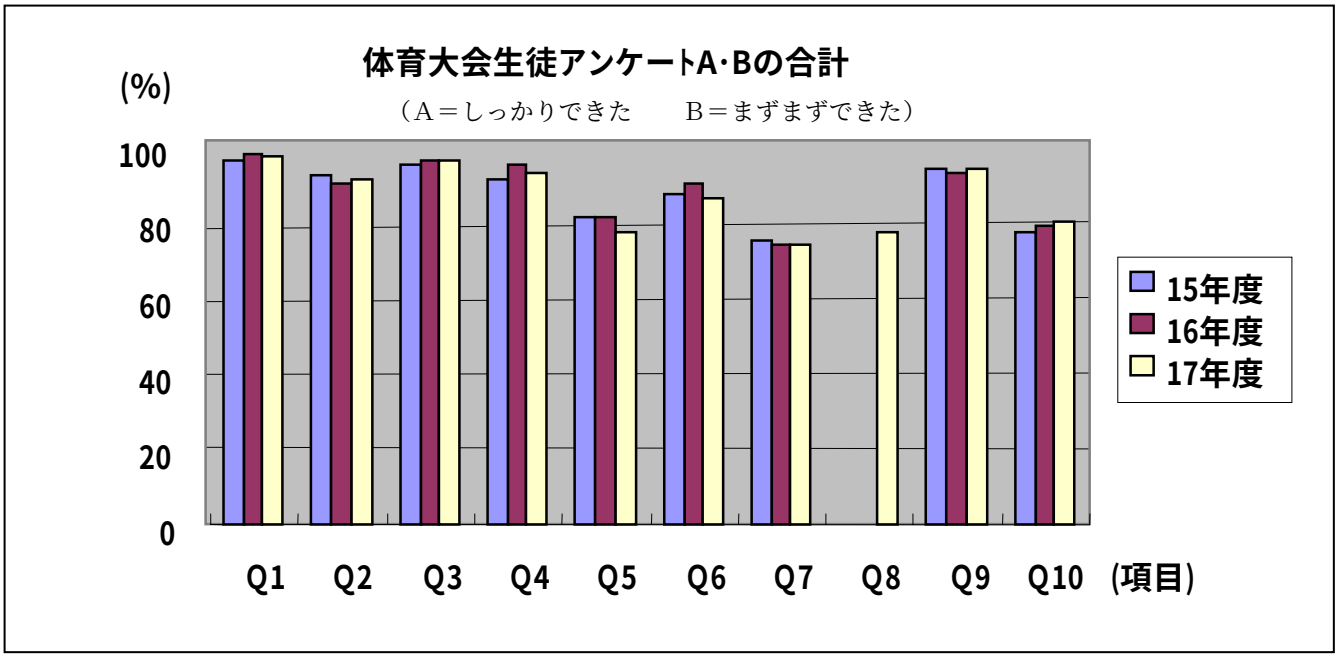
〔教師の記述から〕

・言葉掛けなどの支援により，取組を充実させていく姿がみられた。
・学級の時間や朝の会，帰りの会などで，目的やスローガンを意識して取り組むように働き掛けた。
・担任の負担は大きい（時間的，体力的，その他）が，本当によくやっている。
・臨機応変に細部にわたった指導を多くの先生がして下さった。
・子供たちに呼び掛けることはできたが，どこまで浸透したか疑問である。
・準備や練習の流れが把握しきれなくて消極的であった。
・目的は意識できたが，スローガンを受けた生徒像がもてなかった。

(ｲ) 生徒の評価の結果と分析　〔資料９「平成15年度から17年度の生徒アンケート結果の比較」〕

体育大会アンケート（生徒結果）[%] A･･･しっかりできた　B･･･まずまずできた C･･･あまりできなかった　D･･･全くできなかった		A			B			C			D		
		15	16	17	15	16	17	15	16	17	15	16	17
Ｑ１	練習や大会では，気持ちを十分入れ，意欲的に取り組むことができたか。(体力･気力)	57	63	52	39	35	45	4	2	3	0	0	0
Ｑ２	練習や大会では，健康や安全に気を付けて，活動することができたか。(健康･安全)	48	53	43	44	37	48	7	9	8	1	1	1
Ｑ３	競技規則を守り，スクラムや学級･個人の勝利のために自分なりに頑張ることができたか。(正しい競争心)	69	71	63	26	25	33	4	4	3	1	0	1
Ｑ４	学級･スクラムの仲間のことを考え，協力して活動することができたか。(協調性)	41	51	37	50	44	56	8	5	5	1	0	1
Ｑ５	学級の仲間の知らない面にも気付き，以前より親しみを感じることができたか。(協調性，思いやり)	28	34	25	53	47	52	17	17	21	2	2	2
Ｑ６	スクラム活動を通して，先輩･後輩のよい面を気付くことができたか。(協調性，思いやり)	45	51	42	42	39	44	12	9	13	1	1	1
Ｑ７	自分の係活動以外の場面でも，皆のことを考えて，積極的に行動することができたか。(自主,創造,責任感)	18	21	17	57	53	57	22	25	24	3	1	2
Ｑ８	**大会成功に向け，スローガンを意識して，意欲的に取り組むことができた。(自主性,創造性)**			19			58			21			2
Ｑ９	大会成功に向け，自分の係活動を意欲的に行い，責任を果たすことができたか。(自主,創造,責任感)	47	42	45	47	51	49	8	7	6	0	0	1
Q10	日ごろの授業や練習での成果を保護者や地域の方々に，アピールすることができたか。(成果の発表)	33	32	31	44	47	49	19	18	18	4	3	2

〔資料10「15年度～17年度の生徒アンケート結果のグラフ」〕



平成16年度の反省から，Ｑ８は新しく付け加えた評価であり，課題の１,２年生の意欲をより出させる工夫であったが，まだ満足できるものではない。しかし，「生徒総会での総括」では次のような意見がでた。

・全体的に意欲的な取組姿勢に欠けている。３年は全体を，２年は１年をリードして，みんなで

力を合わせて行うことが必要だと思います。

・スクラムはみんなの力を合わせることができ，すばらしい演技になったと思います。

・みんなの大会ですので，もっと自分の係活動に意欲的に取り組むことが必要だと思います。

・指示されたことはできても，自分で考えて行動するということができないようです。

・体育大会の運営では，初めはやる事など全然分からなくて戸惑い，みんなを待たせてしまいスムーズに練習を行うことができませんでした。しかし，本番では自分の役割を精一杯果たすことができました。

・体育大会を通して一人一人が成長できました。

(ｳ) 保護者の評価の結果と分析

保護者からの評価は，平成16，17年度ともにＡ，Ｂの合計がほぼ100%でとても高い評価を得た。

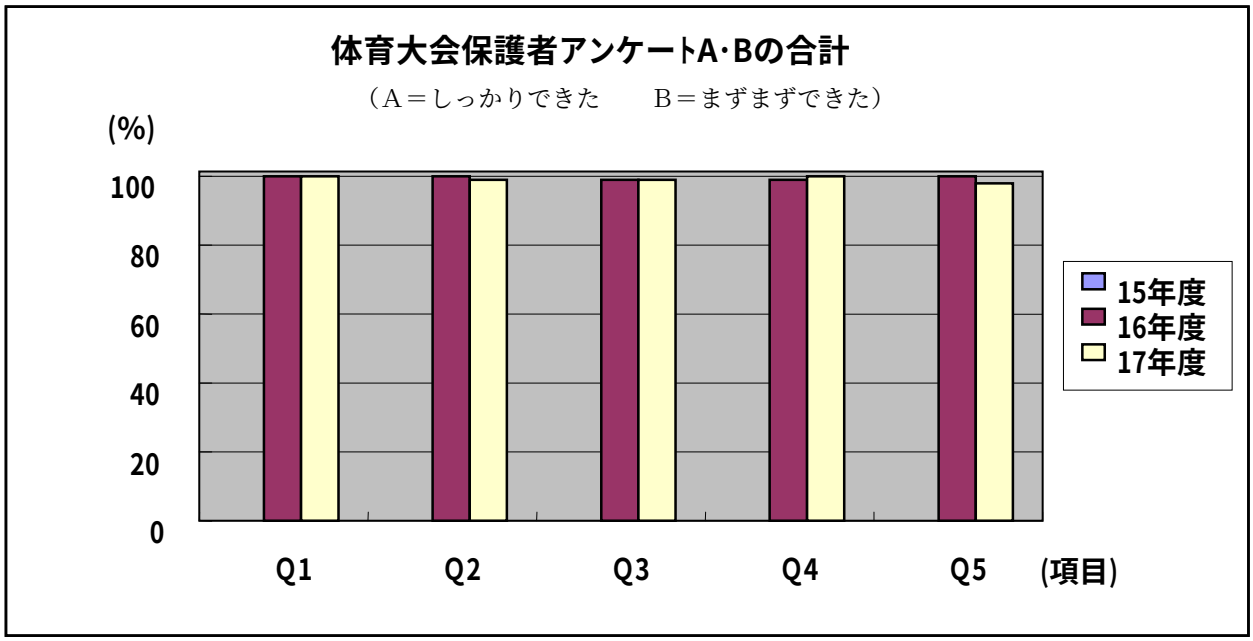
（資料11,12参照）

〔資料11「平成16年度と17年度の保護者アンケート結果の比較」〕

〔16年度〕と〔17年度〕の比較 体育大会アンケート（保護者結果）[%] A･･･しっかりできた　B･･･まずまずできた C･･･あまりできなかった　D･･･全くできなかった		A		B		C		D	
		16	17	16	17	16	17	16	17
Q１	生徒たちは，気持ちを込めて，精一杯，演技をしているか。〔体力･気力〕	77	73	23	27	0	0	0	0
Q２	生徒たちは，競技規則を守り，最後まで精一杯取り組んでいるか。〔正しい競争心〕	72	70	28	29	0	1	0	0
Q３	スクラムを意識して，学年の枠を乗り越え，協力しあっているか。〔協調性，思いやり〕	68	75	31	24	1	1	0	0
Q４	生徒たちは，自分たちの手で大会運営を行うことができているか。〔自主性･創造性〕	61	66	38	34	1	0	0	0
Q５	日頃の授業や練習での成果を保護者や地域の方々に，アピールすることができたか。〔成果の発表〕	58	58	43	40	1	2	0	0

※　平成15年度は来賓だけを対象としていたため，表の数値は，16年度･17年度のみ

〔資料12「平成16年度と17年度の保護者アンケート結果の比較」〕



(4) 「アンケート結果の分析･運営検討」の手順

以下のように手順で,分析や検討を行う。

〔学年会〕―――――――― アンケート結果や運営の様子から，問題点を洗い出し，次年度の方向として，修正する内容や膨らませる内容，削除する内容等を学年の立場から意見を出す。

↓

〔体育部〕＋〔特活部〕――― 学年会から出された意見を基に,具体化した案を検討する。

↓

〔企画委員会〕――――――〔体育部〕＋〔特活部〕からの案を,妥当かどうか検討する。

↓

〔職員会議〕――――――――全職員で来年度の大筋を検討する。

(次年度６月に大筋案を確認し，生徒による実行委員会を立ち上げる。)

(5) 体育大会アンケート結果の分析〔CHECK〕

学年部会が，平成17年度の体育大会アンケートについて検討し，以下のようにまとめてきた。

・ 体育大会のねらいが十分認識されていないため，生徒への指導が不十分であったと思われる。

・ スローガンが生徒の目標になっておらず，形だけになり，生徒の自主性を十分引き出せていなかった。日程が早すぎて，それが多少実現できなった原因の一つであったのではないか。

・ 一度に細案まで提案するのでなく，略案の提案をもっと早い時期にし，実行委員の思いを取り入れながら，段階的に提案すべきではなかったか。

・ 昨年までやってきているから今年も・・・・。という思いが伝わってきた。いろいろな要素を加えすぎている。“ 演技する ”ことに重きを置かず，生徒を育てることを主眼にして行事を行いたい。

・ 保護者アンケートでは，17年度は家庭数405のうち，231家庭（16年度より，100家庭ほど多い）から回答をいただいた。家庭数が増えたにもかかわらず，16年度とほぼ同じ割合であり，保護者からは高い評価をしていただいている。

(6) 体育大会の運営等の検討〔CHECK〕

体育・特活合同部会が，平成17年度の体育大会について検討し，以下のようにまとめてきた。

・ フィールド大会は削る方向で考える。（幅跳び・高跳び・ボール投げの記録会が必要か。）

・ 準備・整理体操以外に，午前中１回と午後１回，全員が参加できる程度の内容ではどうか。
（演技種目の見直し・検討が必要になる。）

・ 授業時間数を確保するためには，ぶっつけ本番の種目を工夫する必要がある。

・ 体育大会終了後に“ スクラム反省会 ”は工夫できないか。
（片付けの開始が16時ごろでは問題である。また，記念撮影も問題である。）

・ 午前の部の最後が“ リクレーションダンス ”ではインパクトがない。
（見ていて楽しそうではない。800mリレーで終わった方が感動的である。）

・ スクラム演技は，午後の部の最初がよいのか？（保護者や来賓の立場でも考えたい。）

・ “ 騎馬戦 ”はいつまで続けるのか。また，対になる“ 五色綱引き ”はどうするか。

・ ＰＴＡ種目は，午後の方が参加しやすいのではないか。

・ “一中祭”と関連付けて結論を出したい。
・ スクラムの時間はこれ以上削られると，演技の質が落ちてしまうのではないか。
・ 日程が早すぎて，生徒の自主性を十分引き出せなかった。時期を少しずらしてはどうか。

(7) 体育大会の改善〔ACTON〕

体育・特活合同部会が提案し，最終的に企画委員会・職員会議で検討され共通理解を図った。

〔資料13「平成17年度体育大会の検討結果」〕

〔１，２年生に意欲的に活動させる手だて〕

スローガンをつくる段階を大切にすると同時に，ねらいを指導者側が一層意識し，それを徹底するための手だてをさらに工夫する。（18年度スタートまでの課題）

〔体育大会の運営等〕

・フィールド大会は実施しない。
・騎馬戦，五色綱引き，ＰＴＡ玉入れは実施しない。
・800mリレー，スクラムリレーについては18年度初めの提案までに再検討する。
・障害物リレーは特殊な技術が必要なものはやめて，３人４脚リレーのようにどの生徒でも練習すればある程度できるものにする。
・一中祭とは別の日に実施し，一中祭については本年度２日間で実施するが，18年度は１日で実施する。
・体育大会の実施日は，少し遅らせて９月20日以後の土曜日にする。18年度の体育大会は，９月23日（土）に実施する。
・全体練習の時間は，18年度は本年度より減らす。
・授業後に実施していた学年競技練習の時間はなくし，体育の時間の中で練習をする。
・体育大会の前週から帰りの部活動はなくし，体育大会の週から朝夕ともに部活動は実施しない。朝は学級で長縄跳びやリレーの練習をする。

〔スクラム活動〕

・体育大会終了後のスクラム反省会は行うが，その後のフィナーレでの、他のスクラムの活動を称えあう場は，別の機会か他の方法を考える。
・体育大会にかかわるスクラム活動は，17年度までは夏季休業中から開始していたが，18年度は２学期になってからスタートする。
・体育大会１週間前から，授業後にスクラム演技の練習の時間を取り，授業時間内でのスクラム演技の練習時間は減らす。

４ 成果と課題

以上のような手法で行事の評価を実践したことで，成果としては「今回の手法による評価方法の有効性を全職員で共通理解できたこと」「各行事の成果と課題を次に生かす評価サイクル（組織マネジメント）の有効性が確認されたこと」「新指導要領実施以前から続いている行事の大きな見直しをすることができたこと」等が挙げられる。

今後の課題としては，組織マネジメントにより問題点や案を出し合い進めていくためには，検討時間が多くかかる。そこでどの行事に比重をかけて組織マネジメントしていくか，１年間を見通して計画的に進めることが必要となる。